

令和3年度 大妻中野中学校・高等学校 重点課題

I. 学習指導について

(1) カリキュラム・マネジメント

- ・教育の柱「自律、協働、貢献」及び3C行動指針（Challenge、Construct、Create）に基づき、学びの重点を、
①多様性を活力とする協働教育、②探究型教育、③STEAM教育とし、様々な教育活動を実施

(2) 多様な他者との協働的な学び

- ・SDGSを取り入れた生徒の探究成果を共有しあう取り組みをより一層進め、授業と生徒が成果を発表する行事との連携をはかり、学校全体での協働的な学びを体系化

(3) 一人一人の能力、適性に応じた学び

- ・ICT機器の活用による学びの効率化を図り、一人一人の適性、課題に応じた学習サポートができる個別最適化（アダプティブラーニング）を検討
- ・様々な生徒が主体的にチャレンジできるよう、外部プログラムや外部からの人材、専門家等の受け入れ、本校が開発したプログラムなどの参加可能な機会の増加

(4) 子どもたちの意欲を高め、やりたいことを深められる学び

- ・授業改善に努め、生徒の意欲喚起につながるよう対話的で深い学びによる授業のさらなる推進
- ・ユネスコ・スクールとしての「学びのテンプレート」の改良及び学校全体への普及、体験に基づく「サービス・ラーニング」の手法の積極的導入

(5) 探究

- ・本校の「総合」及び学校設定科目「GIS」の6年間プログラムとしての体系化、本校探究学習の軸化
- ・文部科学省のWWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築事業を引き続き研究、既存のWWLコンソーシアムへの参加またはパートナー校としてのカリキュラム開発

(6) ICT教育

- ・情報リテラシー教育を含むSTEAM教育の強化及び「S-TEAM」の全体への波及実践
- ・学習ツール・アプリの見直しと効果的な活用方法の検討

(7) グローバル教育

- ・例年実施の「外国語発表会」を進化、発展させた「グローバル教育発表会（日本国際連合協会後援）」の成果活用及び本校の探究学習のさまざまなプロジェクト、クロス・カリキュラムによる外国語教育、フロンティア・プロジェクト、S-TEAMなどの取り組み成果の共有
- ・文部科学省「トビタテ!留学 JAPAN」「グローバル化に対応した外国語教育推進事業」への取り組みを軸に、世界8か国の教育提携校との各種留学のさらなる推進及びオンラインでの国際交流の充実拡大、複言語教育の向上

II. 進路指導について

(1) キャリア教育

- ・各学年の発達段階に沿った本校のプログラムを学校行事全体におけるねらいと目的という観点から再検討
- ・特に女性が活躍するための「グローバル・コンピテンシー」と「言語能力」に関わり、ロールモデルとなる人

(2) 進学力向上について

- ・授業の充実に向けた「より良い授業」の冊子に基づく授業実践及び管理職による状況確認、助言
- ・学力定着確認テスト、補習、講習、チューターの活用等による学力向上サポート体制の効果的運用
- ・進学・教科指導に特化した職員会議（戦略職員会議）での検証、外部模試の検証及び英語および数学の外部検定の学年取得目標値の対する検証等の改善及び効果的運用

Ⅲ. 生徒指導について

(1) 自校教育

- ・他者に対する思いやり、モラル、規範意識等の面について、校訓「恥を知れ」を具体化、共有
- ・部活動を学校生活全般の中で、バランスのとれた形で進めていけるよう引き続き体制改善及び整備
- ・SDGsをテーマとして、世界的課題を広い視野で学ぶことができるよう、各種行事を生徒主体にて企画、実施

(2) コンピテンシーの育成

- ・新しい主体的な生き方を追求する「チャレンジ・コンストラクト・クリエイト」の行動指針を実践していく能力を「コンピテンシー」として、様々な行事の中で醸成

(3) 多様性・インクルージョン教育

- ・生徒指導の観点から、SDGsを意識、活用した教育活動の計画実施
- ・「ユネスコ・スクール」「SDGs」などの取り組み方を生徒自身が生徒会組織として検討する機会の設定
- ・日本語母語話者ではない生徒、海外にルーツがある生徒など多様な生徒が在籍する教育環境を活かした生徒同士が切磋琢磨できる機会の設定

(4) 安全・安心教育

- ・ネットリテラシー教育の定期的、継続的な実施
- ・「いじめ」防止、早期発見、早期対応について、全教員が問題意識を共有し、学校全体として対応する体制の継続
- ・登下校時の安全管理、交通ルールの遵守、校内環境の整備等の安全管理の徹底

(5) 独自の施策

- ・道徳教育の一環とした日本文化学習、いじめ防止教育、性教育講演、ボランティア等の効果的配置検討
- ・トランス・ナショナルへの意識を踏まえた生徒指導体制の構築検討
- ・日本語母語話者ではない保護者、海外にルーツのある保護者等への対応ができるスキルとマインドセットを、外国人教員を含む全教職員が持てる取り組みの検討

Ⅳ. 組織体制について

(1) 組織体制の強化（管理職の役割・校務分掌・学年分掌等）

- ・各校務分掌の在り方を再検討し、目標達成に向けて柔軟に各部署が協働して課題対応可能な組織風土を醸成
- ・教職員やステークホルダーが、日本語話者や日本の組織風土の価値観を持っている人だけではないことを前提とした組織体制の検討
- ・英語で教育実務が可能な人材育成及び外国人教員と校務を協働できる環境整備

- ・「グローバル・センター」の役割を広げ、帰国生、グローバル・リーダーズ・コースの広報、入学、留学、進学などの分野に関わるとともに、多様な背景、専門性を持つ教職員の能力を学校全体の推進力とする

(2) 管理職のマネジメント力の強化

管理職による経営目標に基づいた所管部署の目標設定及び達成に向けた方策実行の進行管理体制構築

(3) 教員の能力開発

- ・教員授業相互見学、考査問題の公開、生徒による授業評価、大学入試問題研究会等の全員実施
- ・ユネスコ・スクールの加盟校であることを活用したグローバル教育教員研修の実施
- ・教職員のグローバル・コンピテンシーをさらに伸長させるための研修を計画、実施

(4) 教員のワークライフバランス

- ・変形労働制の導入と改善（時差勤務、フレックスの検討）
- ・SHR、部活顧問等への非常勤講師の活用

(5) 高大連携

- ・大妻女子大学との連携強化
- ・他大学入試広報担当者等によるガイダンスの実施
- ・SGH アソシエイト活動に関わった大学だけでなく、新規の大学との連携も強化。特に大学入試広報担当だけでなく、ファカルティとの連携に注力
- ・海外の大学との連携をより一層進め、対面、リモート両面でのレクチャー、ガイダンスの推進

(6) 各校独自の施策

- ・保護者を積極的な教育リソースとしての活用検討

V. 教育環境の充実について

(1) 教育環境の充実（快適性・安全性等）

- ・教育環境について各観点を改めて検討作成し、調査改善を実施

(2) ICT 機器の充実

- ・旧機器の見直しと更新スケジュールの策定及び生徒・教職員が確実に機器を利用できるための可用性の維持

VI. 入試広報について

- ・経営計画に基づいた国内入試及び海外入試の検討及び改善及び広報戦略、入試広報業務の再点検
- ・web、オンライン、対面等、国内外に学校の特色をこれまで以上に効果的に広報できる戦略の検討
- ・海外入試実施については、グローバルセンターとタイアップして、編入試験も同時実施